

会 議 録

1. 会議の名称 かすみがうら市子ども・子育て会議（第1回）
2. 開催日時 平成25年11月8日（金） 午後1時30分から
3. 開催場所 千代田庁舎 2階 第1会議室
4. 出席委員 池田幸也、狩野良和、下拂俊美、藤崎瑞紀、坂定治、
江後田一也、金指洋寿、酒井賢治、岩瀬友子、鈴木敏夫、
宇津野英広、小澤正哉、時田浩美、元木廣子
5. 欠席委員 小松紀恵
6. 事務局等 副市長 石川眞澄
子ども福祉課 久保田課長補佐、関児童館長、畠山係長、
立花主任
（株）ワイズマンコンサルティングさいたま支店 山口
7. 議題
 - (1) 正副会長の互選について
 - (2) 子ども・子育て新制度について
 - (3) かすみがうら市子ども・子育て会議について
 - (4) かすみがうら市子ども・子育て支援事業計画策定について
 - ①子ども・子育て支援事業計画策定までのスケジュールについて
 - ②市子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査について
 - (5) その他

8. 内容

【事務局】

かすみがうら市子ども・子育て会議を開催いたします。
それでは、最初に石川副市長より挨拶をさせていただきます。

【副市長】

皆さん、こんにちは。副市長の石川です。
市長が公務により不在のため、代わりましてご挨拶申し上げます。

委員の皆様には、大変お忙しい中「第1回かすみがうら市子ども・子育て会議」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

今回開催する「子ども・子育て会議」につきましては、子ども子育て支援法第77条の規定に基づき開催するものでございます。

国では、社会保障と税の一体改革大綱の中で、子どもを生み育てやすい社会を目指して創設された制度であり、すべての子どもが良質な育成環境を保障し、子ども・子育て家庭を社会全体で支援することを目的として平成27年4月本格施行することで進められております。

当市においても、新制度実施に向けて学校教育・保育・養育支援の充実など、さまざまなニーズに応えることが出来るよう進めてまいりたいと思っております。

委員の皆さんには、この委員会で協議していただく内容等については、後ほど、事務局よりご説明いたしますので、宜しく願いいたします。

【事務局】

続きまして、委嘱状の交付ですが、委嘱状につきましてはお一人お一人お渡しするところですが、お手元の封筒に同封いたしておりますので、そちらをご確認お願いいたします。

【事務局】

続きまして委員紹介ですが、名簿の順番に自己紹介をお願いいたします。

(委員・事務局 自己紹介)

【事務局】

(1) 正副会長の互選について

かすみがうら市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定により、「会長及び副会長は、委員の互選によって定める」こととなっておりますが、どのように選任したらよろしいですか？

【委員】

事務局に一任します。

【事務局】

それでは事務局一任という発言をいただきましたので、会長に常磐大学 池田教授、副会長に神立幼稚園 狩野園長にお願いしたいと思いますよろしいでしょうか？

(異議なし) の声あり

(会長・副会長の席の移動)

会長が決まりましたので、議題(2)以降の内容につきましては、池田会長に議事の進行をお願いいたします。よろしく願いいたします。

【会長】

さっそくではありますが、議事には行っていきたいと思います。

(2)「子ども・子育て新制度について」資料1を中心に事務局のほうから説明をお願いいたします。

【事務局】

(2)「子ども・子育て新制度について」 説明

【会長】

ありがとうございました。「子ども・子育て新制度について」ご説明いただきましたが、何かご意見・ご質問等がありますか？

【会長】

それでは私のほうから。給付事業の施設型給付、地域型給付のメリットは具体的にはどのようなものでしょうか？

【事務局】

今までは、幼稚園は私学助成、就園奨励費や保護者にお支払いしていた補助金があり、保育所は国や県から運営費として補助金をいただいて、各保育所に委託料として支払っておりました。認定こども園は、幼稚園部分の私学助成と、保育所部分の運営費ということで、市の方から支払ったり助成金をいただいたりしていたのですが、こういう仕分けをしないで、施設型給付として一本の給付になりまして、どの施設においても同じ給付にしていくというものです。金額等はまだ示されてはおりません。

【委員】

従来であれば、保育所に入る方は所得に応じての保育料で、あとは運営費という形でした。幼稚園は税金に関わらず決まった保育料を納めて、その調整に年度末に就園奨励費という補助金があります。そういった2通りの補助制度があったが、ここにきて幼稚園と保育所の補助の率も違う。もう一つは待機児童などの関連で、もう少しキメの細かい保育を充実できるような施設を作りやすくしようということで、地域型保育給付を創設して、きちんと運営ができるような体系を作っていこうというもの。同じ子どもたちなので、同等の施設が運営できるように、幼稚園と保育所のお金のかかり方が違うということで前々から話がありました。

かすみがうら市には私立の幼稚園が二つ、公立幼稚園はないのです。あとは私立保育園と公立保育所です。幼児施設をかすみがうら市の中でどんな形がいいのか進めてもらえたらありがたい、というのが私の考えです。

【委員】

ざっくり分けると、施設型給付に関しては今までの認可をされた部分、地域型保育給付は認可外とされてきた部分。それを一つのベースできちんとやろう、ということで、家庭的保育であれば「保育ママ」や「居宅訪問型」、そういった

部分についてもきちんと制度でみていこうということです。それをやるうえで、ニーズ調査をして、それに対してどれくらいのものが必要になっていくかを決めていくのがこの会議の部分です。

資料4の12ページのところで、現行制度との違いという部分が載っています。利用者負担についてもそうですが、新制度ではこれを全部一本化していこうということです。簡素化していく、わかりやすくしていったって、保育を必要とするしないに関わらず、教育保育を提供していくというのが今回の制度です。

【会長】

はい、ありがとうございます。幼稚園と保育園または無認可の保育も、制度として位置づけていく、それが具体的にはかすみがうら市の中でどのように対応していくかという事だと思います。

他はいかがでしょうか？よろしければ次の(3)の方に入っていきます。

【事務局】

(3)「かすみがうら市子ども・子育て会議について」 説明

【会長】

はい、ありがとうございました。4ページ5ページの、かすみがうら市子ども・子育て会議の役割について説明いただきました。

ご質問等がありますか？

【委員】

資料で、「幼児教育・保育施設（幼稚園・認可保育所）」とありますが、その他に「認定こども園」も入れた方がいいのではないのでしょうか？「特定地域型保育事業（認可外保育所）」という言い方をしていますが、先ほどの4つの類型がありますので、そういう形にしておいた方がわかりやすいのではないかと思います。

【会長】

はい、ありがとうございました。他にはいかがですか？

この会議は、子育てについて次の段階を皆さんと検討していくという位置づけになっております。

ご質問等なければ、(4)に進みたいと思いますがよろしいでしょうか？それでは事務局の方から説明をお願いします。

【事務局】

(4) ①「子ども・子育て支援事業計画策定までのスケジュールについて」
説明

【会長】

スケジュールについて何か質問はありますか？

【委員】

県に対しての報告ですが、私どもでは2月にヒアリングをやりたいので、県の報告を2月にいただきたい。

この会議自体ですが、H27年3月に計画を決定する形になってはいますが、その前にこの会議に報告等あった方がいいかと思えます。パブリックコメントがあるのでそう変わりはないだろうけれど、最終形をこの会議に報告をしてくれた方が皆さんにとってもいいのかと思えます。

【会長】

何回か計画案を検討する機会が必要だということ、市民の皆さんからの意見もいただいたうえで最終的にしてはどうかということです。それでは、基本的にはこのような予定で進めていくということによろしいでしょうか。

それでは、次に②計画策定に伴うニーズ調査の説明をお願いします。

【事務局】

(4)②「市子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査について」

説明

調査票について (株)ワイズマンコンサルティング山口様 説明

【会長】

はい、ありがとうございました。ニーズ調査の目的、概要、方針、資料の2・3について説明をいただきました。

ご質問・ご意見等ありますか？

【委員】

アンケート調査対象が就学前で600名、小学生が600名ですが、今、市では対象となる子どもたちの家庭はどのくらいあるのでしょうか？全体数の中の600という数字が、アンケートとしてどうなのか？というのが一つ聞きたかったこと。あと、かすみがうら市は細長くなっており、真ん中が街場で、こちらは農村部でと、非常に地域性がそれぞれに濃い地域なので、その辺の反映の仕方というのがどういう風になっているのか？

アンケートは単純に抽出してやるのか、地域ごとに地域の人口調査をしてやるのか、確認したかったのですがどうでしょうか。

【事務局】

対象児童ですが、世帯数になると、小学生と就学前とがだぶってしまうので、対象世帯数としては正確につかんでいないのですが、対象児童については就学前の児童は2,249人、小学生が2,377人、合計で4,626人の小学生までの子どもさんがいます。

こちらのアンケート調査の1ページですが、問1で「お住まいの地区はどちらですか？」とあり、小学校区に分けてあります。これで、どの辺の地区から

こういった答えが返ってくるかと、今抽出をしている所ですが、人口割で、下大津小学校区で何人、美並小学校区で何人・・・と抽出してやっていくか、検討しています。

実際のところ、下大津小学校など小さい小学校になると、全体の3%位しかいなかったりするので、その割合でやった方がいいのか、平均的にやった方がいいのか、その辺もご協議いただけるとありがたいです。

【委員】

600という数字はアンケートの割合としてどうなのでしょう？

【事務局】

少ないかと思うところはあったのですが、だぶっている世帯なども考えて、1学年あたり100件位を想定して600という数にしています。

【会長】

2点質問がありましたが「調査対象件数は大丈夫ですか？」という件ですが、これは統計的にどうか、というあたりで、先行してやっている他県や他市での数はいかがですか？

【委託業者】

この600件というのはこちらで指定した件数ではないので何とも言えないところもありますが、事務局さんと協議をして「件数自体は少ないのでは？」という話もしたのですが、世帯向けであったり重複する家庭があったりするので、そういったことを考えると600件という数字になるのかと考えられます。こちらの意向としては「もう少し件数を増やした方がいい」というのが、正直なところあります。

【事務局】

補足ですが、アンケートの回収率は50%くらいあればほぼ達成かなというのが事務局の考えですが、600名に催促通知等をして限りなく600名に近づけていこうかという考えはあります。

委員の皆さま方が「もう少し多い方がいい」という事であれば、もう少し増やそうかと思えます。

【副市長】

次世代育成支援地域行動計画（冊子）の3ページを開いていただくと、ここで対象件数を1,000件としている。先ほどの調査項目の、国の指定の項目の後に市独自のものをに入れて、この次世代育成支援地域行動計画の方につなげて時系列に追うとすると、これを600とした場合、継続的に比較をする中で1,000と600のアンケートの回答数・割合で、同じに比較していいのか？という考え方もでてくるのではないかと思います。再検討した方が良いのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございました。そして先ほどもうひとつありました、小学校区単位で抽出したらどうかという話ですが、どうでしょうか？

【委員】

学校にお願いをして回収するというのであれば、それなりの回収率にできるし、郵送でないので費用もかからないし、その部分では少し増やしても楽かなとは思いますが。

【会長】

貴重なご意見をいただきありがとうございました。学校の協力を得るということですね。縦に首を振ってくださっている方も何人かおりますね。

【委員】

この調査をしていく中で、いろんな意見が出てくると思うのですが、できるだけ多くの世帯からの意見が集まる方がいいかと思うので、この件数はもう少し増やした方がいいのではないかと思います。回収率がそれだけというのであれば、初めに多くの協力のもとでアンケートをとった方がいいのではないかと思います。

【会長】

件数については、先ほど1,000件という意見もありまして、それに合わせるという所でご検討をいただけないかなという雰囲気がございます。

あと、地区別の抽出をするかどうか、小学校区をいくつか組み合わせたようなものを考えるか、いろいろ工夫はあるかと思いますが、市内の地域を意識した調査・回収をした方がいいのではないかとのご意見いただいております。

【委員】

うちは神立駅のすぐ近くなので、その辺の方々の意識と、周りの意識とでは、少し違っているようなところがあります。家族も、街なかのアパートが多い所だと核家族ですし、元から居る方だと二世帯、三世帯の同居のケースが多いです。だから偏ってしまうと違ってきてしまう部分もあるのではと思います。

【委員】

今、世帯数、回収などアンケートのお願いをやっていきますけれど、アンケートのこれだけの項目は大変だと思うのです。私の方でも、これと類似したものをやったことがあるのですが、その家庭、家庭によって考え方も違います。アンケートを回収して計算するというのは、調査世帯を増やすとこのスケジュールでいくと本当にキツイと思うのです。その辺もあまり負担にならないようにし、私としては小学校区単位でやった方がいいと思います。そうすると地域性の方も分かるし、その方がいいのではないかと思います。ある程度人数の多いところだけを集中的にやっても、少ない方の考え方もありますし、その辺はよ

く考えてやってもらった方がいいと思います。

【委員】

ちなみに、この時の次世代育成支援地域行動計画のアンケートはどのように集計したのですか？郵送ですか？

【事務局】

いいえ、郵送は使いませんでした。

【委員】

では、施設などをお願いして？

【事務局】

はい。回収率も高かったです。

【委員】

これはもう郵送ということで決まっているのですか？資料では「返信用封筒」と書かれていますけれども、以前のように保育所や学校を通しての方が、提出しやすいというか。渡されるのが子どもを通じてで、回収率も高かったというのを聞いて、せっかく同じ数だけ出すのであれば回収率が高いことにこしたことはないので、考え直せるのであればそうした方がいいのではないかと思います。

【会長】

アンケートの配布の件数ですが、件数を増やした方がいいのではないかとこの意見、または、現実的にそのスケジュールで大丈夫なのか？というご指摘をいただきました。それから、小学校区別で調査をした方が今後のためになるのではという意見。回収方法については、それぞれ学校の先生方にご協力をお願いするか、いろいろ悩むところではありますが、方向性としてはより市民の子育てされている皆様の声を集めたいということには違いないと思います。今まで出た中でご検討いただき、数については増やす方向で、抽出方法は検討していただくというのは可能でしょうか？

【事務局】

増やす方向で考えたいと思います。

【会長】

件数を増やす中で、それぞれの地域の声を反映するような抽出方法を検討いただき、回収率を上げる方法ですが、これは市民の皆様にもご協力いただくということでお願いしたいと思います。他にいかがでしょうか？

【委員】

アンケートの5ページで、問15-1の「3・認可保育所」の説明書きですが、この説明を読んで分かる方はいるのか？具体的に固有名詞を書きってしまった方がいいのではないのでしょうか？我々のように児童福祉を担当していればこ

の表現を目にするのでいいのですが、普通の人ではなかなか分かりづらい。あと問15-3の回答で「2・他の市区町村」とあるが、具体的にどこの市町村かを記入できると、後の計画を作る段階でいいのではないのでしょうか。

【委員】

問15-1の選択肢で「1・幼稚園～11・その他」までありますが、全部施設はあるのですか？

【委員】

認定こども園が一番近いところで石岡に1件ありますが、そこを利用しているかどうかはわかりません。

【事務局】

「居宅訪問型保育」「ファミリー・サポートセンター」は市内にはないのですが、実際利用している方がいるかどうか、という事で残しておいたのですが、ほとんど利用はないのでは？という事であれば、県からの指示でも「不要な事業は削除してもいい」という話であります。

【委員】

「居宅訪問型保育」というのはベビーシッターの事だと思うのですが、かすみがうら市内にはそういう事業をしている方がいないとしても、ベビーシッターは人を派遣することが出来るので、土浦の人に来てもらう事などは十分できる話だと思います。ですからここは、市内に事業者さんがいないだけの話です。

【委員】

8ページのところですが、幼稚園は親子登園をやったりするのですが「保育所の親子登園」は無いですよね？

【委員】

保育所の親子登園は、運動会など行事の時だけです。

【事務局】

県の方に確認をいたしまして、「利用しているもの」の選択肢に関しては削除してよいとの事でしたが、「利用したいと思うもの」に関しては、実際に無くても、ニーズ調査で「こういうのがあったらいいなあ」という事があれば削除しない方がいいとの話でした。

【委員】

保育所というのは「保育に欠ける状態のお子さん」新制度では「保育を必要とする状態」なので、親子で登園するというのはまず無いのでは？

【委員】

あと親子で来るのは、「子育て支援」もあります。

【委員】

保育所は「親子登園」というよりは「子育て支援拠点」のイメージなのかと

思います。保護者に「親子登園」という言葉は馴染みがあるのか、という部分もあるかと思うので、説明書きに「子育て支援拠点のようなもの」と書くのであれば分かるのかなと思います。

【委員】

ちなみにこれは、園に在籍していて親子が登園するものではないですよね？
在籍していないで、親子で遊びにくるような事業のことですよね？

【委員】

園の遠足等の行事ではなく、在籍していないで遊びに来るものは子育て支援しかないです。一般的には子育て支援という書き方がわかりやすいかと思います。

【会長】

文言についてはもう一度チェックいただいて、ほかにいかがでしょうか？

【委員】

素人からいうと、これを「お願いします」と渡されたときに、家の事も仕事もして忙しい中でこれを書けと言われると、もう少し簡単にならないかなと思います。一番大事なところだから参加はしたいと思うのですが、もっと簡単に答えられるものだと嬉しいなと思います。

【委員】

市町村すべて同じでやっていただいて、市町村ごとに集計を出し、さらに国のレベルで集計をしたいのです。「質問項目を削らないで」と言っているのはこの為です。早めに出していただいて、記入する時間を増やしていただく形がいいのかな、と思います。例えば問15-1のようなものが、どこにどれ位の人数がある、というのも全体として見ていきたいと思っています。

【委員】

その中で割合とかも、600じゃ少ないという話もありましたが、県だったら44市町村である程度統一というか、市町村によって多い少ないがあると、データの差がつくのでは、と感じるのですがその辺りはどうですか？

【委員】

どういう形で抽出をしているのかというのがありますし、専門的なやり方もあるので、ここはある程度大丈夫だとは思いますが。票数が少ないとデータの信憑性もでてくるので、ある程度広めにとっていただく。地域差もかなり出てくると思います。県南と県北ではかなり違った部分も出てくると思いますし、そこでどういう施設が必要なのか、それぞれの市町村単位で見なければなりません。

市町村のエリア・小学校区の計画を作る段階で区域設定というのをやって「この所にはニーズはあるけど施設がない」といった時には「ではそこにも施設

を作らなければならない」だとか、あるいは「認可保育所や認定こども園はあるけど、こっちにもニーズはある」といったら「こっちは小規模で対応している」などという判断をしていかなければならないので、データとしては広く取りたいと思います。

【会長】

国が進めている調査というのもあり、共通なデータを集めたいというのもありまして、基本的にアンケート項目は増やすことはできても減らすことはできない、という事です。より回答しやすく、回答していただけるようにしていきたい。

わたしはこれを見て、見た目の印象で申し訳ないのですが、1ページ2ページ目の文字が多い。タイトルも正式な事業名ですけれども、お父さんお母さんに呼びかけるような、子育てについての皆さんの声をお答えくださいというような、そういうタイトルで、大きな文字で簡単な説明があって、詳しいことは小さい文字で、これ自体がボリュームのある物なので、せめて表紙自体はボリュームのないものにすると、少し気持ちが楽になるのではないかなと思います。

【委員】

アンケートのことは事務局の方で協議してもらって、いろいろな意見が出たのを整理して、やってもらいたいと思います。

【会長】

アンケートが終わった後、この集計結果に基づいてこの会議でまた検討していく、ということになります。今日ご覧になっていただいて、今後検討する為の材料としてよろしいですか？漏れている点、付け加えてほしい点などありますか？一通りそういう点では国が作成した中で合理的にはできているのだとは思いますが。今日ここで出たことを基に、再度検討をしていただいて、年内にはアンケートを実施したい、ということです。

【委員】

今日の会議を経てアンケートを作成して、すぐ出してすぐ回収ですか？

【会長】

そういうタイムスケジュールになります。

【事務局】

ヒアリングもありますので。

アンケートの修正したものが出来ましたら、委員の皆さまにアンケートの用紙をお送りしたいと思います。郵送にはなってしまいますが。

【委員】

ちなみに、いつ頃分けてどのくらいまでの回答期間ですか？

【事務局】

出来れば11月末頃に送付したいと思うのですが、遅くても12月までには。それで12月中に回収です。

【委員】

学校の方で、件数とありましたが家庭数ですよ？児童数と実家庭数では別で、兄弟がいれば実家庭数の方なので。実家庭数であれば少なくなるかな、と思います。

2年後に小学校の統廃合があるのですが、後々アンケートを使っていく上で影響はありますか？おそらく、児童クラブもどのような形になるのか先がみえませんし、空き教室が果たしてあるのかどうか、児童館のような施設があればそこで児童クラブをできると思うのですが、そういった事が2年後にくるので、統廃合が影響あるのであればその辺も考えた方がいいのかなと思います。

【事務局】

小学校区ですが、細かい小学校区になっていけば大きい学区に集約できるのですが、最初から大きい学区を基にしてしまうと、今度細分化となるとなかなか出来ないのでは、最初細かい方で集計しておいた方がいいのかなという考えはあります。

【会長】

今、ご指摘いただいた小学校の統廃合の事、将来的に考えていく、その部分を意識しながら検討していく、という事も必要なかと思えます。

後半皆さんからたくさん声が出ましたが、このアンケートを回答する方々にどのようにお願いするか、お願いするだけでなく「これはどういう意味だろう」というのを、お父さんお母さん方が話しながら回答するような場がないと情報交換にならない。アンケートについて質問いただいた場合、回答する対応も必要になるのかもしれない。

できるだけわかりやすく、たくさんの方々に読んでいただけるようなアンケート。そしてそのアンケートの結果が今後の計画に反映できるようなものに、回収率の方も努力していただいて、という事です。11月中にはアンケート案を印刷するようなので、お気づきの点があれば個別にでも出させていただくのもありですよ。

【事務局】

今の素案でよろしければ、11月中旬頃、来週いっぱいまでにいただければ。

【会長】

来週いっぱいまでに、このアンケートの内容等にお気づきの点があれば、子ども福祉課の方に連絡をいただければありがたいと思います。

それでは議題の方は以上になりますが、(5)「その他」で何かありますか？今後の予定などは？

【事務局】

今後の予定ですが、スケジュールにて2月頃に会議を予定しておりますので、通知は1月頃に出しますが、事前に都合の悪い日等のご連絡をいただければ、なるべく皆様が参加できるように調整しますので、宜しくお願いいたします。

【会長】

ありがとうございました。次の段階では、具体的な今後の事についての検討になりますので、引き続き宜しくお願いします。ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。